



全日本民医連 第15回看護介護活動研究交流集会に参加して

10月29日

看護師 山本 眞智子

私たちわかばは、全日本民主医療機関連合会（以下全日本民医連）という医療と介護の院所施設が集まる全国レベルの団体に参加しています。全日本民医連では、自分たちの技術や実践の向上、経験交流のために看護介護活動研究交流集会を開催しています。今年は京都会場とオンラインで開催。午前の全体会には2500人、午後のテーマ別セッション（集会）には1500人が参加しました。



寒くなったね

わかばでは、昨年8月から取り組んできた口腔ケアについて「ようやく始まったところ踊る専門的口腔ケア」と題して抄録にまとめ応募したところ、採用され発表しました。

演題は「わかばでも高齢者と口腔ケアの重要性は認識していたが、『なかなか口を開いてくれない』などの悩みをかかえていたところ、地域の歯科医師歯科衛生士の協力を得て専門的な口腔ケアに取り組むことができた。そして口腔ケアの取り組みから、言語聴覚士を招いて嚥下（えんげ・飲込み）の学習につながっていった。えん下のメカニズムを理解し問題点を知りその対応を考えるようになった」という内容です。

演題は「記録の宝」であり印象に残った発表はいくつもありましたが、ここでは福井地裁元裁判長の樋口英明氏が「私が大飯原発を止めた理由」をテーマにした記念講演についてご紹介します。

樋口氏は「原発事故は極めて甚大な被害をもたらすので高度の安全性が求められるが、我が国の原発の耐震性は極めて低いため、原発の運転は許されない」として2014年関電大飯原発（福井）の3・4号機の運転差し止め判決を出され、その理由について科学的根拠に基づきお話されました。フクシマが大惨事にならなかったのは信じられないくらいの奇跡で、いくつもの偶然の産物であったこと。折しもウクライナのザポリージャ原発がロシア軍に占拠され大きな問題となりましたが、「原発は自国に向けた核兵器」であり、「被害の大きさも事故発生率も高いパーフェクトの危機」だと言われていたのが心に突き刺さりました。

12月21日クリスマス会
着々と準備が進んでいます



クリスマスの雰囲気が出てきました

特別養護老人ホーム

わかば

〒640-8390 和歌山市有本140

TEL (073) 475-0015 FAX (073) 475-0016

HPアドレス <http://www.nijiwakaba.com/> ※「にじわかば」で検索